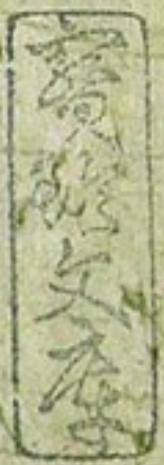
狂戯いろは詩歌

狂戯いろは詩歌

錦囊書局

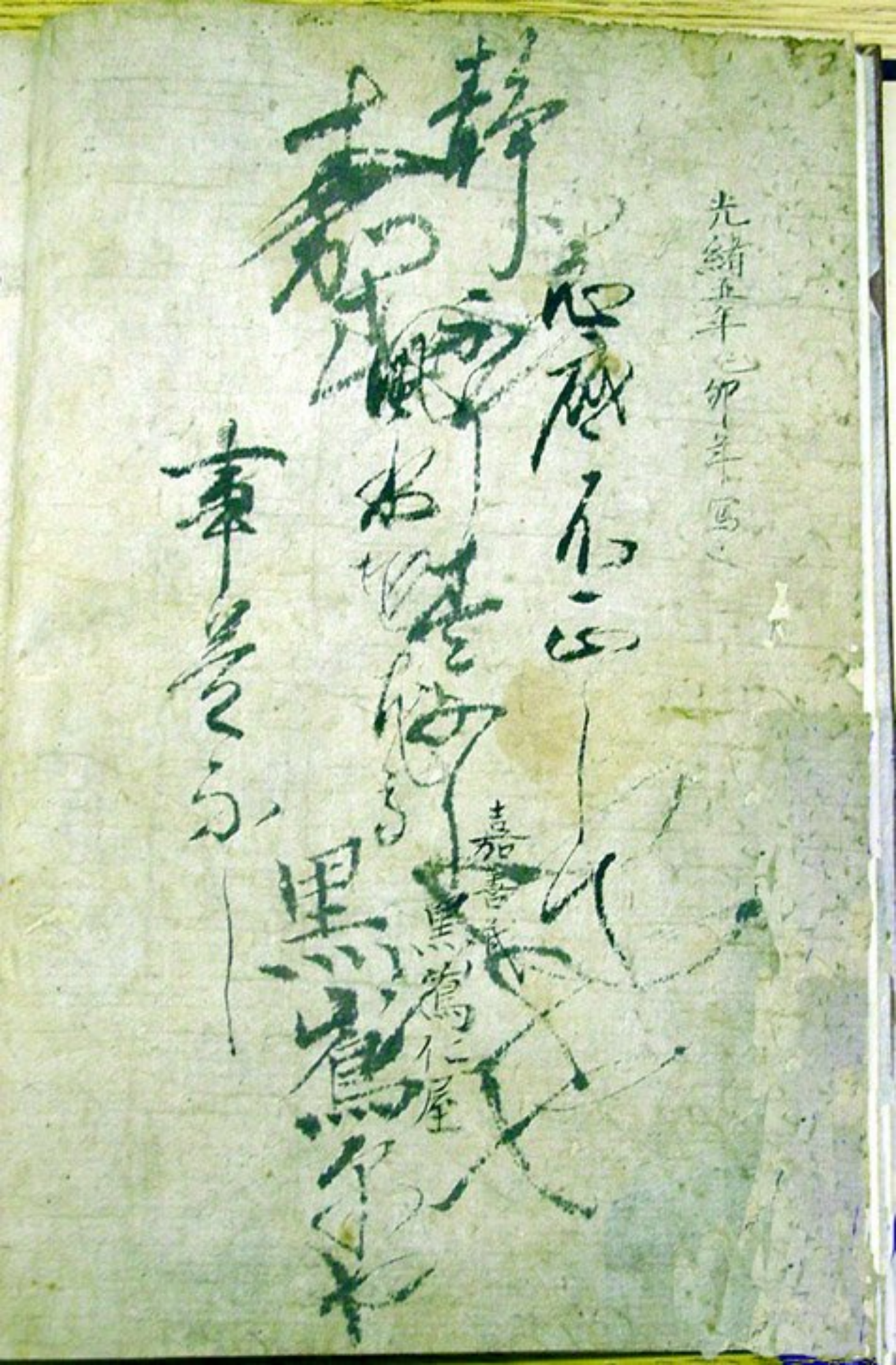
道光二十八年戊申二月上旬来之





拙戯ろいろは詩歌

永寿



いろは詩歌序

抑いろは歌乃権輿は千早振神代乃むかし日乃本の弘法大師乃御創作なるよし

文字よりも真文字よりおもしろく

一二の唄ぜさえ分らぬ人ハ論語全部

太宰公を遡ること御十二代ハ御先祖

貴久公ハ御実父

日新公ヨリ
貴久公迄十二代ノ名将ノ御高恩ヲ
斉宣公永ク
日新公ノ御志ヲ御継遠慮有セラルヘシトノ
御諚ヲ以テ一郡ノ御領地ヲ
被為下候ヘハ
文ヲ修リ武ヲ振ヒ吾邦ニ在ル

當今様ニ御六代ノ御先祖
尚敬君ノ御時唐薬ノ宮学ニ被仰付
蔡文溥國師先生ノ門ニ入
奥義ヲ極メ
玉ヒ
日新公ノ法ヲ以テ
御子孫ヲ導キ
聖業ヲ恢弘(ハシメ)(トヅノ)シ
給ヒ
御心ヲ盡サレ
伏テ惟(オモヒ)ミルニ
先君賢相ノ道ヲ以テ
動(ドウ)ト
民庶ヲ鼓(コ)シ

なんぢと詩歌の風流を
事てはんや実に節義(ニセ)風雅(フウテウ)詩歌かしこびて
詩小をあげて目(こづかう)を大きく咲ひ服を絶ち汗で
関ふまひ延を有はさよひ如(ニカ)ごとき
燈井に投んとせり小孫と云ふ池あり
名ふ先く我等文育明の一物には成
度けまし生涯遊(ユ)ー意かと

悟
老婆兒孫愛執纏身
兼老者を抱く
雖然として
留恋
有もう流石
世
浅
読者
味い
十
預
所
足
物
最
愛
慈
悲
活
処
近年
共詩歌
子孫

詩文等綴ることさ
痴翁稟受尤遅鈍。學習多疎見識昏。老至ル
私慙ル無所異。狂歌俚語教兒孫。
詩を歌もあるよしにて
文字ばかりつづりおくこそ
此非歌語也非詩。字行行作韻辭。自警自
嘲還自解。欲ス林焚ヲ棗草ヲ要ス無遺スヿ

老(オイ)の戯(ざれ)の拙(つたな)き詩(し)を
也(や)百物笑(ももものわら)ふなどそへて
適有(たまたまあ)兒孫頻(じそんしきり)に索(もと)め癡翁(ちおう)溺(おぼれ)て愛(あい)
警(いまし)め要(もと)め禁(とど)他見(たけんをゆるさず)。祇怕(ただおそる)終(つい)に斯文(このぶん)辱(はずかしめ)
道光十又七年秋九月 榕(よう)窓(そう)羽(う)客(かく)誌

[illegible]
永寧[illegible]

戯るいろは歌

いろはまる」ゟ

腊(スケ)まてのそんし

習ひ初(そめ)し人の

迫(せま)るなり

いづも親祖父(おやおほぢ)の

松葉(まつば)をとるやう

全大意詩對聯

玉不琢(シハ)磨焉(イツクンテ)做器

人無學問竟無知

誰言質美何須學

堯舜孔顏總有師

念吾親(テ)罔極深恩(リ)

須全遺體

情け深く　想人子無レ虧常職

春よそくそて　宜盡レ孝心

為楫（カジ）しう船や　適見（ルニ）江頭往返輪

実（マコト）に（ト）モ（ユキ）潜（ク）レ水（ヲ）ゆき　擢棹正（ク）執（テ）不レ迷津

人や美我理（ことわり）うで　吾儔（トモカラ）在（テ）レ世如何是

浮世渡りる　義理存（テ）レ心美（ユリセヨ）レ厭身

ありとそ（トシ）こそ（コヲ）

素より本意
ならずあめまを
首生おもひやだり
はたらきもなくして
徒らにくらし
わざわひもてまね
と云ふこと

功蒙寵禄成家業
當竭忠勤報國恩
貴賤賢愚一様同
勤勞努力得成功
見多其逸厭頁輩
悠蕩優游致失身

はたらく（ゴロ）

糸竹もそで

来ませう

百年ほぐん

にをさかり

人のこころ（ヒト）ぞ

元よ（モト）

絲蘿永ク結テ宜シ家室

琴瑟長ク和シテ（コノセエイザオイテ）唱ヒ従ヒ

世上ノ人多シ賢不肖

看来（ミル）須ク自ラ省ル吾身ヲ

常ニ能ク向ケ此ニ工夫ヲ去（ス）

つゐに
にて
遺處有師德日新
為兄為弟鬩同氣
宜友宜恭念孔懷
若使人来有稱譽
只宜謙遜要如虛

誹り遂ゆる　自為レ能得成容色
そこにのそも怡復為レ佗致見疎
婦事姑冝如レ事レ母
姑憐レ婦亦若レ憐レ兒
家族宜親一氣

へ

一もとふしさしあ
あふむやましく
情けあしふか

へだしいぞとしぬ
わかどひもとしね
捨かへしまか
どうしてお恋

派流雖異總同源
損益宜論朋友際
時加講習以資仁
善柔佞僻非攸貴
直諒多聞是可親

へだかうち人々
勿論ともかくも
いそがしい
ほねおり
じやうず
よひにかぎる

こし方ゆくすゑ

おのおのあつまりて

恥猶文非嫌下問
終身牆面不開明

可知鄉飲由来久
貴尊序齒普示仁

[illegible]後高年希世

人のみちをもしらず加心厚く待少壮人
そこなわれぬる
こころにしたがうまでもなく
常人孝友衰妻子
おやきやうだい
程度事に
汝等則腸戒溺迷
ふりかえりみるひまもなく
塵埃日に積遂に為窩
ちりほこり
もれ積てかしこに
學習時に重當建功
ふさがりて

日(ニイ)くらす仏(ほとけ)

沙門(しゃもん)となるまじ

ちかきたうとき

人(ひと)をもちゐて

かけぬけくいしる

心(こころ)ばせよとなり

り(ト)ぶ(ン)んぶ(ン)ん

可(レ)笑遑遑(名)浮躁輩

雖(レ)能有(ト)始總(テ)無(レ)終

理驗(ベ)心(テ)身(ニ)多有(レ)得

道求(ベ)元(レ)妙却(テ)生(レ)迷

富北人人雖不(レ)欲

義理ヲ
如何有命有時哉
臨財見利宜思義
莫遺浮雲謾入来
捨ル
人ヲ
應知俊傑多逾我
自負聰明勿傲人

氣稟低昂不足論
才能長短莫爲言
恭謙度守千祥戸
平直心頭萬福門

清くやそ
君をまもる犬も
宿守るでそ
常つ国信ぬまも
わごのこと物
君為ゆ玉命をし
石代もやそそ

犬能代テ主ニ守門戸
人合ニテ検レテ身ヲ収レ放レ心
畜獣猶知レ勤レ厥職
儂ニ荒レバ業ニ対レテ物ニ慙ルヲ深
為レ為レ玉何ニ由テ重上声

垢(アカ)附(ツカ)ぬ[レ]ようど　無垢無塵最有光
てまもる
をこたりなたうは
喝(上十)してやります
沙門大敵乃
云々
(ク十)
ごとくこころえる

螢雪照来能終學
功名大顯足(スレリ十九二)為師
片時間断如仇敵
刺股(サシ)懸頭(ケ)特(タノ)為之

をけがなたらんてゝもり　剛柔男女雖相異

義理の所勤も　義理操存豈不同

いとつゝしめ

わらべ等つゝしめ

よろづ(ゴト)をつゝしめ

則ちくわしくも

移りぶりも

人倫(ミチ)有愛(スル)兒孫意

詎(ナンデ)獨無知所(ヲスメ)勸懲(イマシハ)

隨分酌(テ)宜(ヲ)宜早曉(ス)

馴馴(テ)勿使至堅冰(ニ)

ひとえに
わが為におもい
よろこぶ
人恩なかれ

かぎりなき
人恩なかれ

人々名利
深く
願望無涯存息除

取友親師常存益
感恩戴徳永無譏

官階品級先多少
榮禄寵恩各不平

分(ブン)安処　心安(ヤス)分(ニ)楽自然生
かりそめ(イ)ならハ
うつされる(ル)
道乃中(ナカ)勉(スヽ)や
定めぶり(イ)しや
よ(イ)ふてもよりそふて
徒(イタヅラ)に指(サ)ゝ
氣崇平更嫌(ニクベ)疑滞
心要活常(ニ)使周流
乙夜徒(レテ)然ふ典敢(テ)逸(ル)
索綯歸讀有可(キ)為(ス)ヘ

一 ㊀

二 よしなきのおしり

関は作りまた

捨てゆくや

そうなきべ

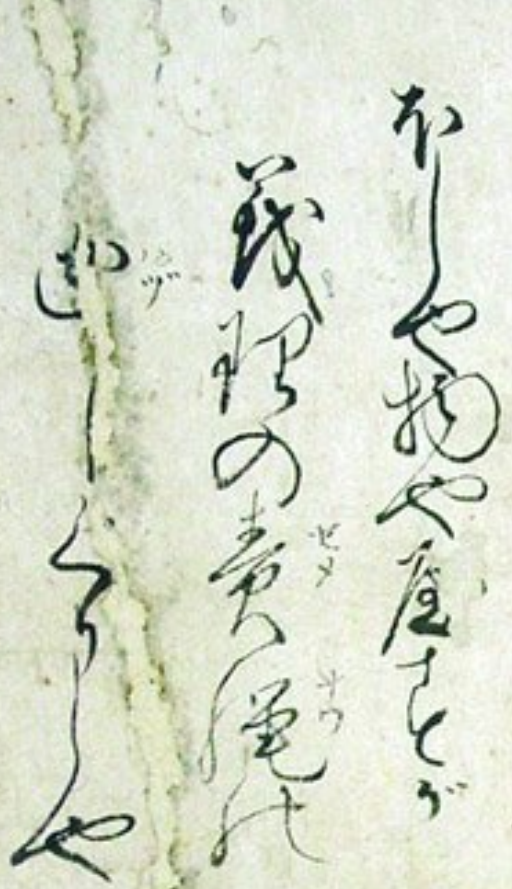
なき前快見ん千竿竹

光陰似箭難追償

一事無成歳月虚

他如短処人能説

耳得聞時口莫言



せいゝ夫ニ和れ
ふ多ゝへなるら
きゝぐの事に
目抜ところか
れい儀てやりふらん
あまし去実れ
情け有返しとも

交道古来貴禮義
尊卑長幼合[illegible]
慶凶贈答還音門
各致慇懃不可虧
曰禮曰義将做得
原情藉實要脩来

又さらに名や
なのりそね
つみぶかあらや
おのはなさりん
肝さらやさよふけ
胸もうちも
つきいでぬ

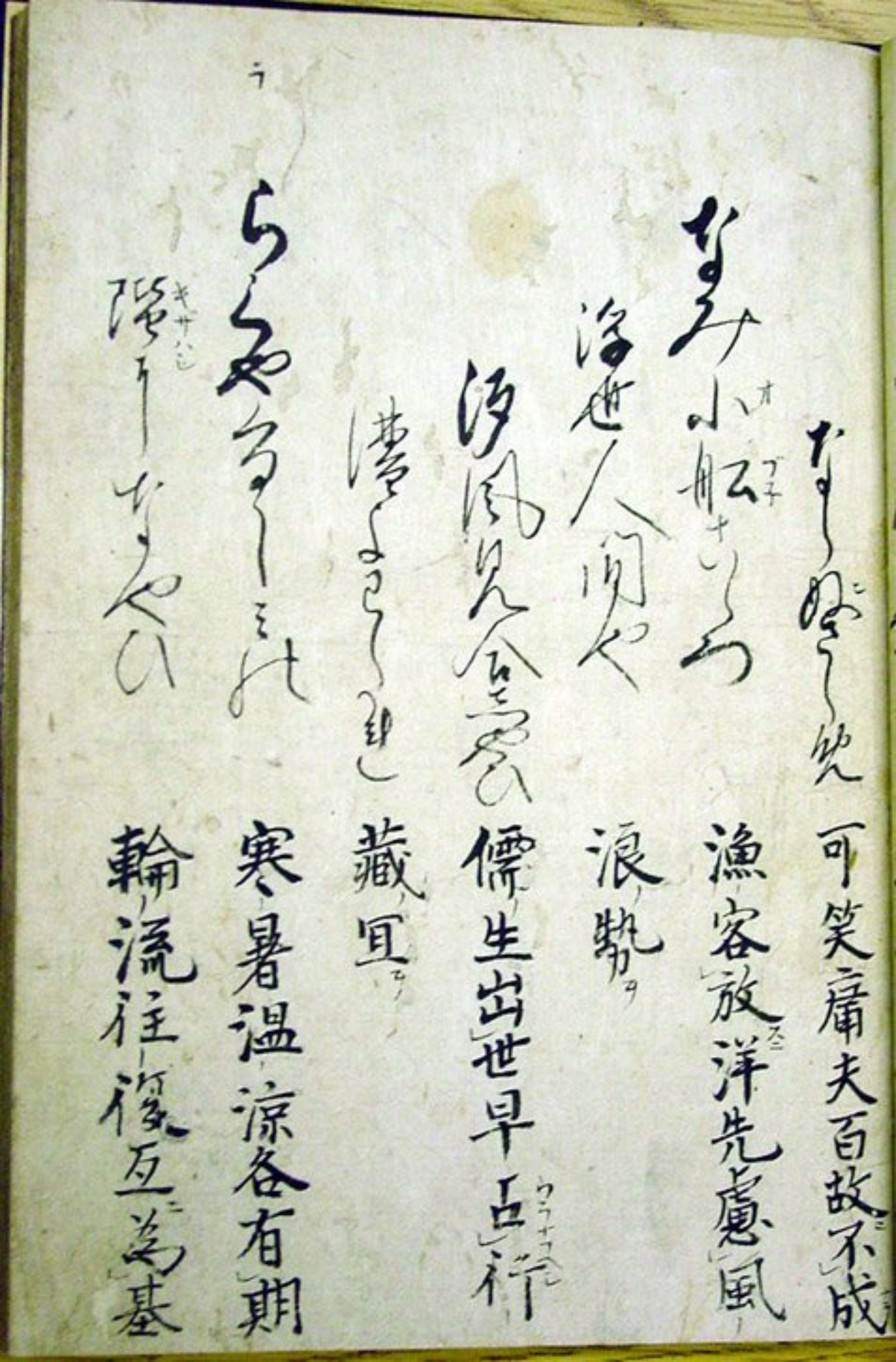
無忘平日若臨(リン)淵(ヘリ)
人犯禁(ツヽ)安得(シンゾ)不懲(ノーマシテ)
宜斟(テ)情實要(スル)相應(セン)
審明議定將(レテ)加(ルニヤ)罪
於意亦當有所(アラム)矜

入高少出陽　欲制産以營生
苟合苟安　宜量入以作出
安命安分　臨事周詳須盡念
祈人祈天　用心縝密自鮮傷
世間有許多不如意事
只要你隨機應變
古今人事之成否
祇是相關這一傷

脉たゞ股をうごかすばかりにて
人をとらんとするハ
うそをつくなり
なまぬるき事よの中にあるまじ
おさゝねばかりにて

臨怒時無暴其氣
傷人處即害吾身
陽氣震来金石透
精神到處事功急

折枝我讀前賢語



苔みち楽苑　人間萬事都如此
地ぶくるまを　隨遇安然是我師

らんの花ごころ

まなび友ぞまどえる　益友如蘭宜滿座
胡々迫有まて　斯人入室自同香

匂いうつる

むべいうんともも　感應天人惟影響

地天(テン)の中(ナカ)や　鑒觀有赫自無(ナク)蔽(ヘイ)
人農なると業の隱徴(ヒソカ)向背猶能照(テラス)
ものとあるを　顯見(アラハル)公私豈得(エン)欺(アザム)
むなしく仕(ツカ)まつりけむ
如多(モロモロ)思慮煩(サワ)胸臆(オク)
燈(アカシ)らかに勉(ツトメ)めよ　怕耗(ウシナハ)精神誤(アヤマ)命期(イノチ)
命(イノチ)たのしく

うらみあんてやり　勘忍従来為最住
むつたいそもる　争心自抑(テ)十慰(ユ)禁懐
一人むつく(十一イ)　人侵(サハ)我耐(レンデ)無思報
そそやかいさめ　報報交接(テ)不有涯
うみとりかいとに
月ひろそそは　山海量寛(レテ)能納物
いづをよしぬ(クイキヌ)て　風波途険自留神

隠りがいなみ

わらは居(井)しを

立(タヽ)ば立(タヽ)どころ

放てるかもし

面よ守るく

わのけくいもて

宮(ミヤ)けりをけく

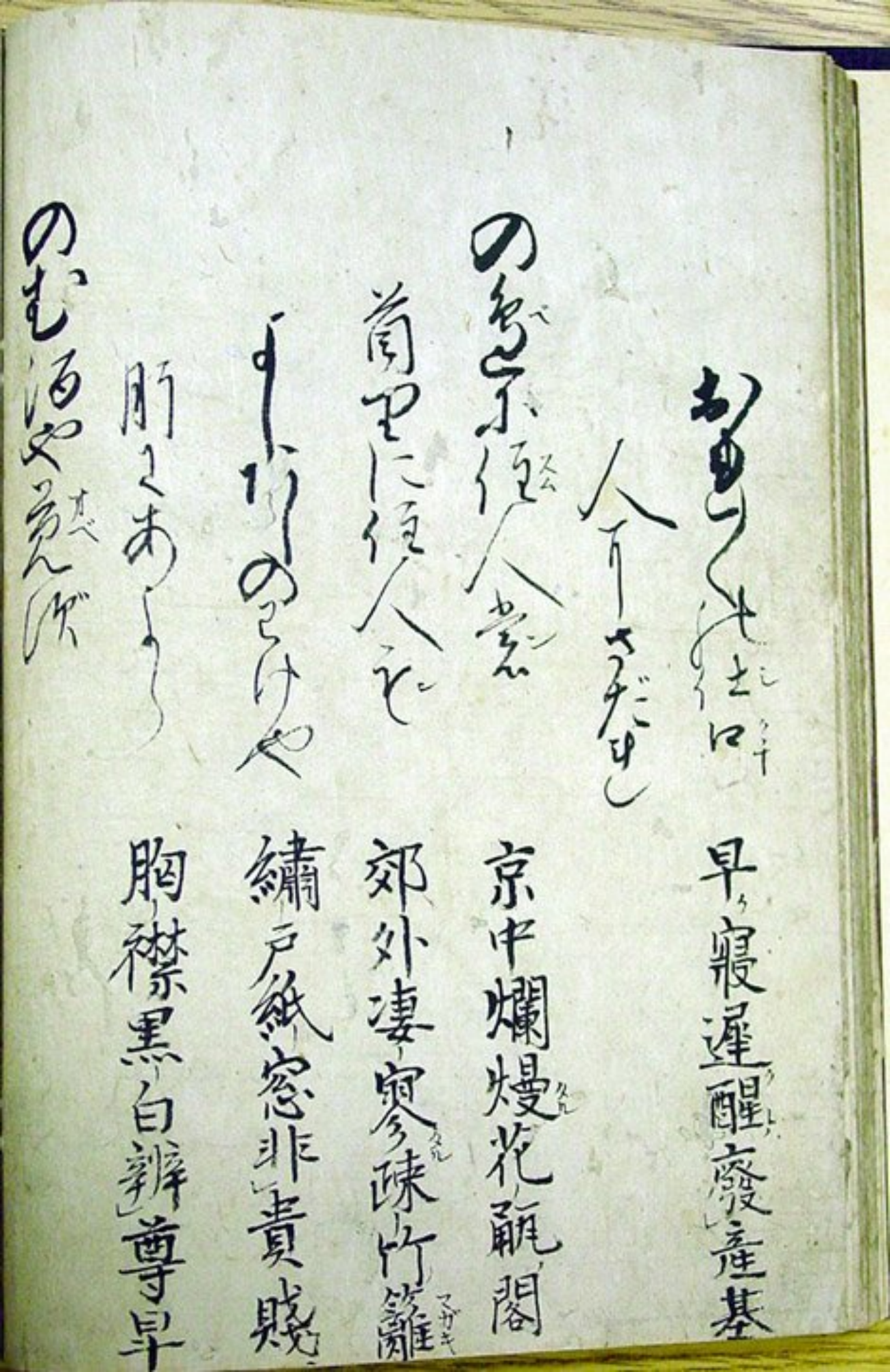
古来心學惟崇敬

不識工夫何處尋

身在(うヽ)前(ニ)心還在(マヽ)此

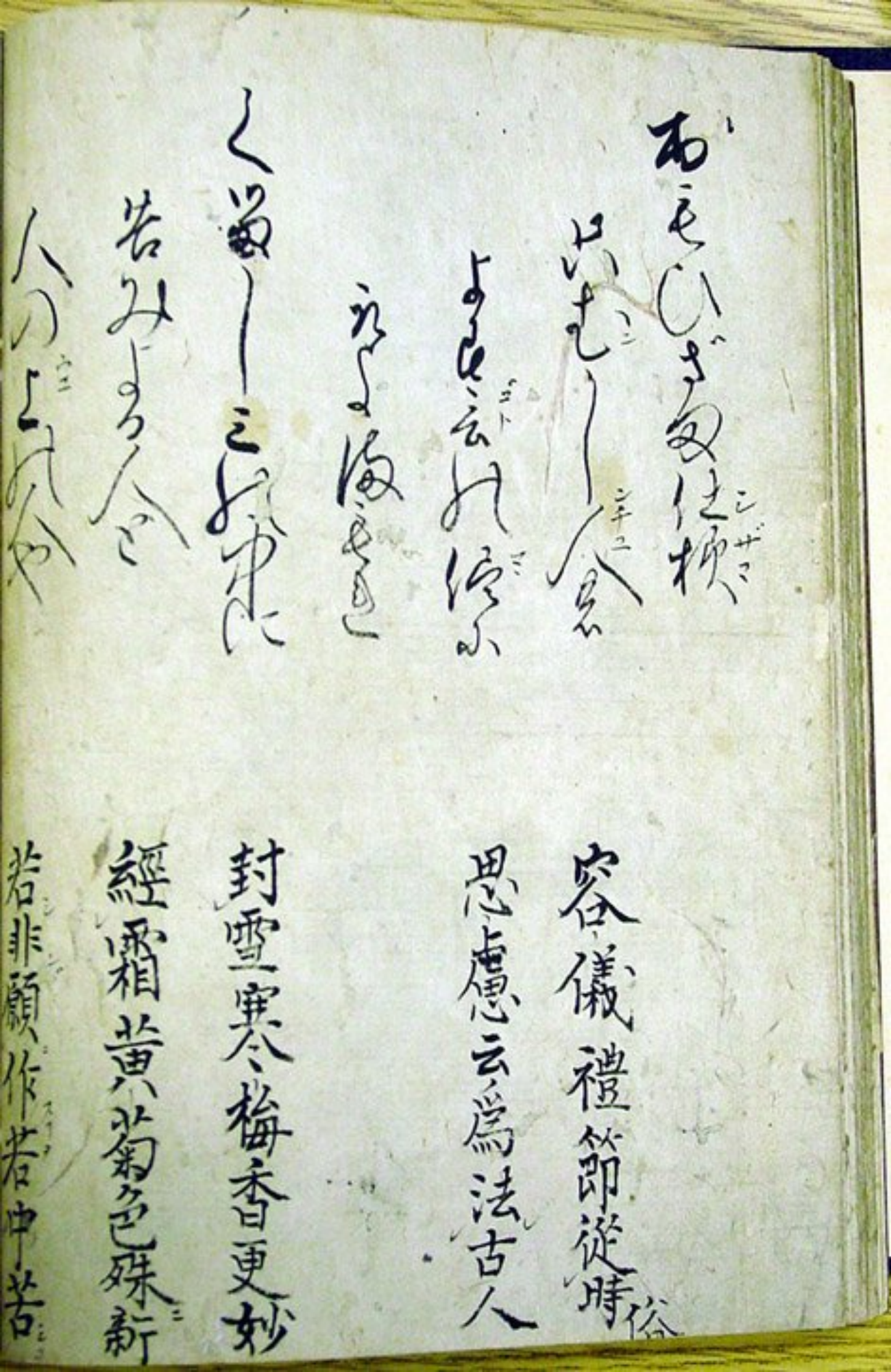
參前心即(十)倚衡心

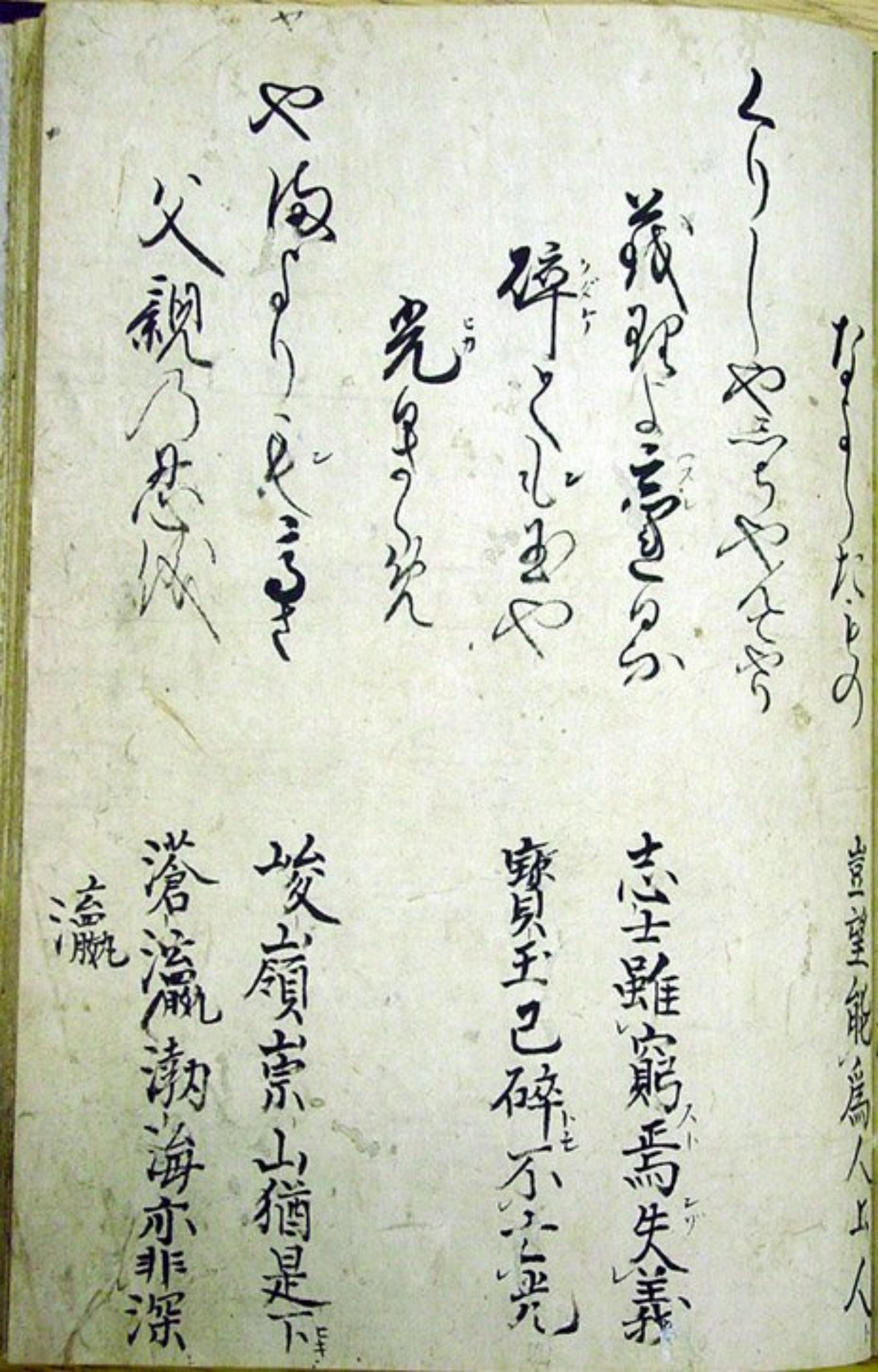
亥(ニ)眠寅(ニ)起營家業

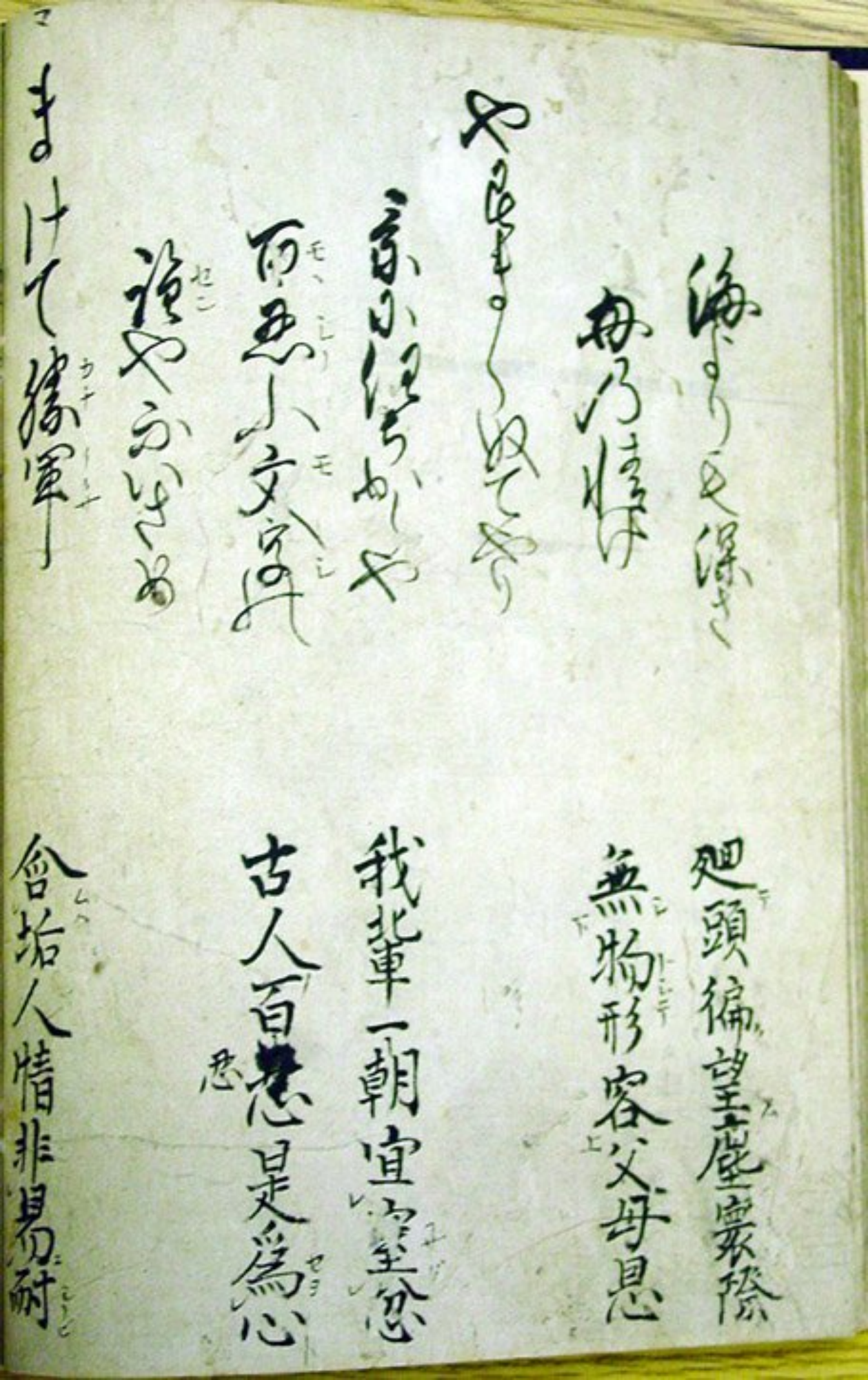


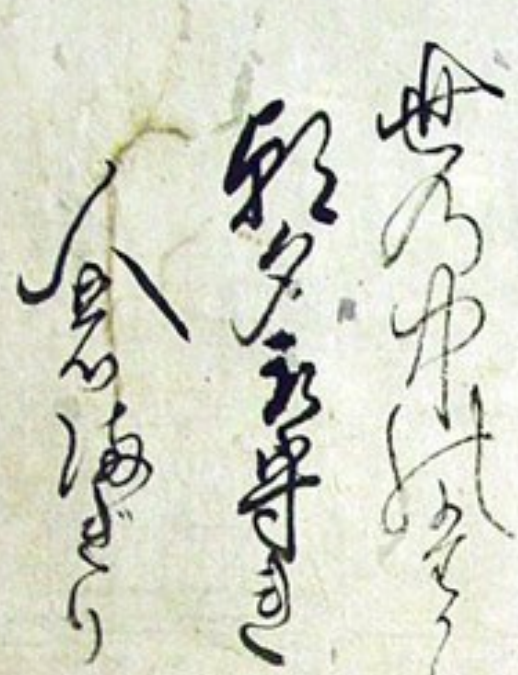
吾邊(ソヘ)之例
豈乃牧有
(オメ)
ゟ(ツ)信れ
おもふ(久カ)ふる
新妻(カヨヅマ)乃人妻
ゟ向ふ
敵とゟ(ホコ)称く

一杯在ゝ千憂顛倒
毎酌留心到醉狂
嫉伐(ホコ)嫌(ム)傲男女似
憐謙好(ヘ)遜士民均
平常可戒高誇態(スカタ)
東北西南多敵人









張良轉信是何人
經綸韜略歸雙掌
屢下袴間來國鉾

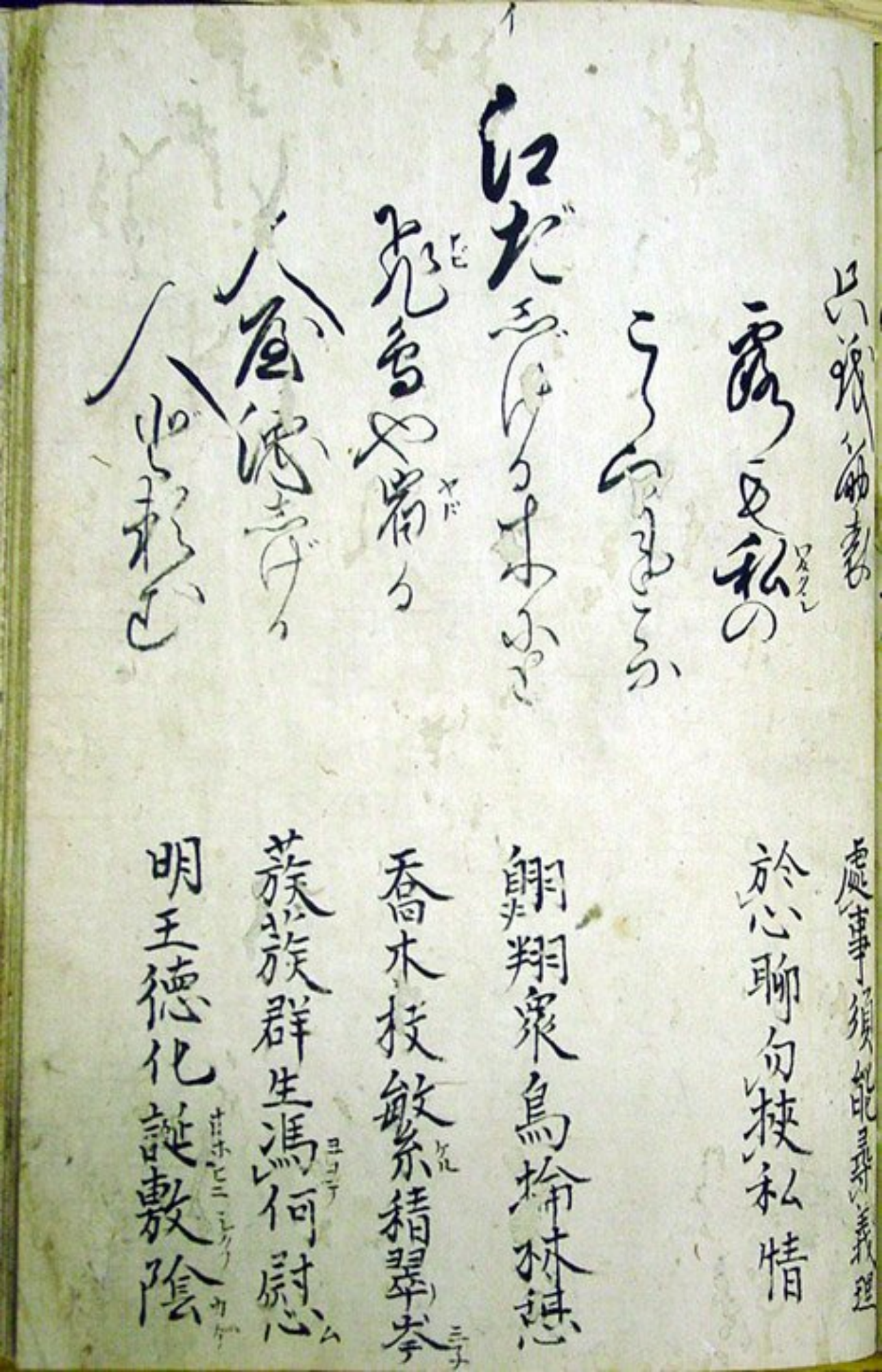
生人德業忠兼孝
處世恒心敬與誠

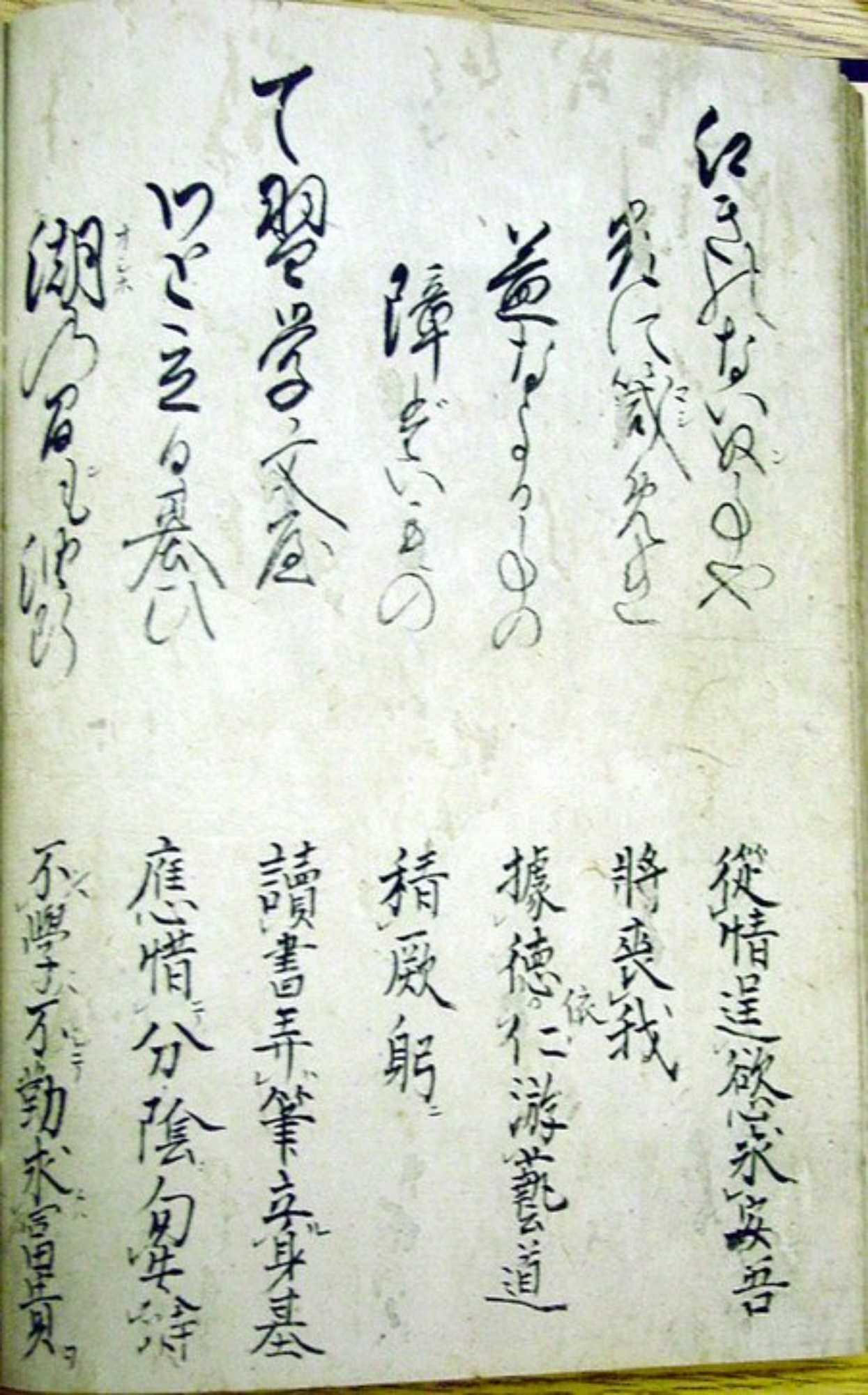
けなげなるかな
共にのいきどおりや
山城野のように
勢余留こそ
けんめいなれ
世渡りのたて
彼をこれをして

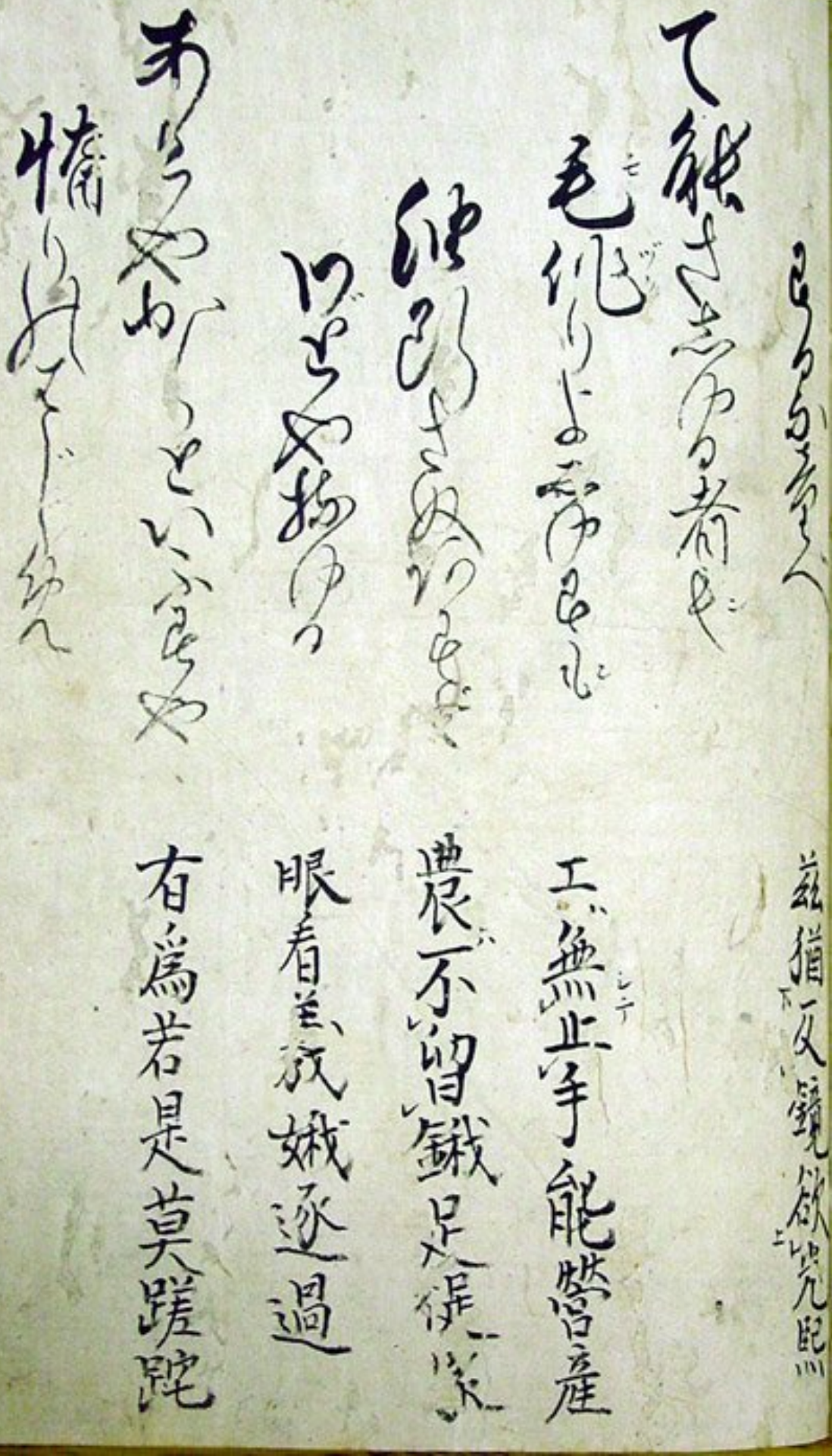
人間利来難不詳
介然節操勿傾移
清晨薄暮存三事
初夜残更畏四知

敏奈華可敬言傾家
節素須知保産基

累世熙朝盛曲至（レル）
臨時水鐸唱来規（ルノリ）
開聰透腑（レテ）旨無私
雖俾（ニ）凡然心昌悦（ルトモナニソ）（サン）
富豪能散（テ）周施恵（サセ）







茲猶又鏡欲ニ見ル
下ニ

工ミ無止手ニ能營産
レテ

農不ニ留鍬足ニ徒ニ
ブ

眼看ニ玄娥逐過

有爲若是莫蹉跎

休言旦暫後明日
明日中明日々又
百姓堪憐生道野
四肢不惣苦耕芸

酒色先賢辞君誰

後車宜鑒前車復
遠慮則能免近憂

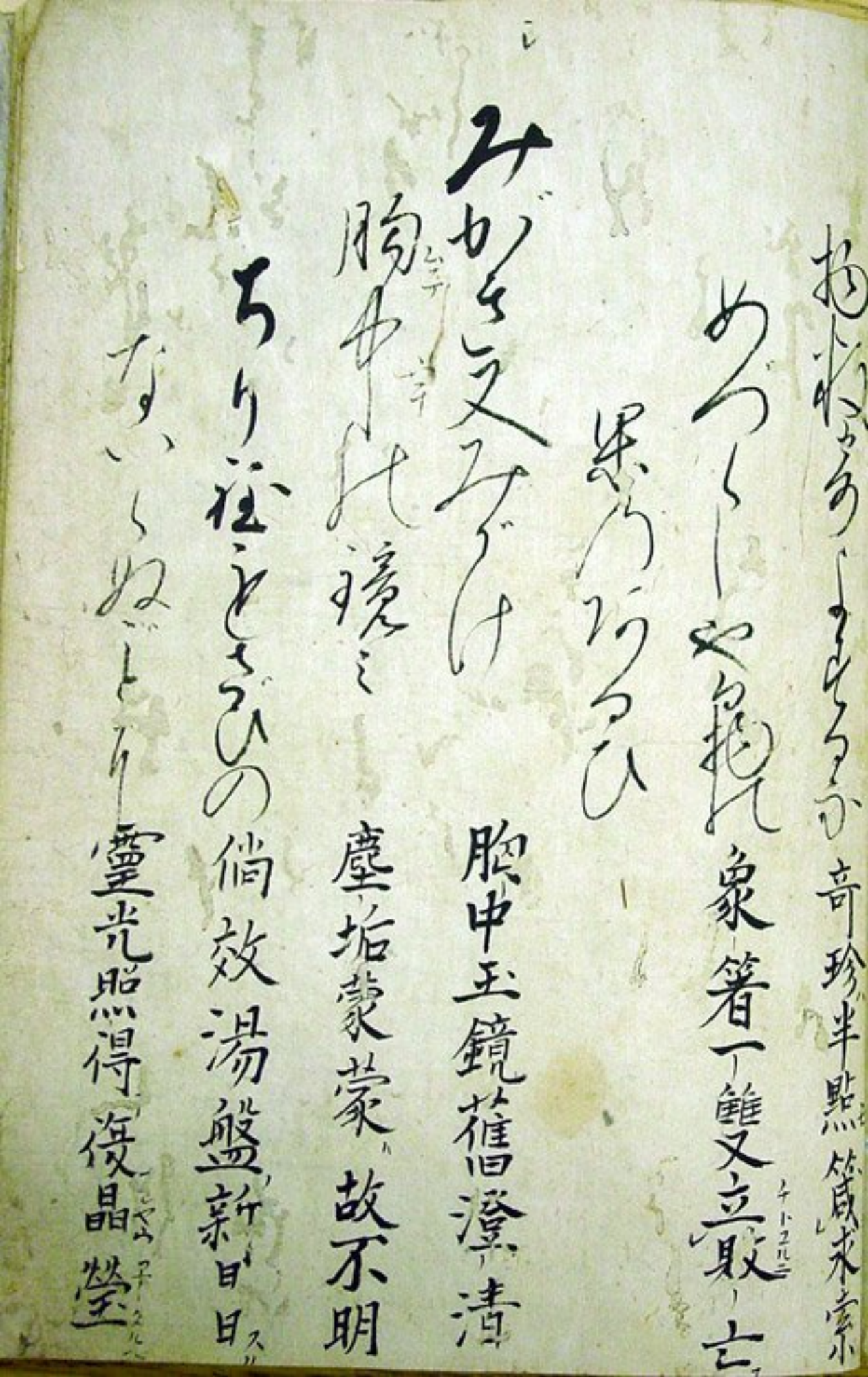
禍福無門閉自取
云為有守在吾身

きこ乃親乃御恩
そらなる
ふかき
父母生来慈愛至
君王禄養寵賞敦
微躯何着雙天徳
銘感常無忘報恩
攻氣潜心能定靜
是非乃取捨
出謀發慮自衡平

なまかぶやめ

ゆたうなる間(カン)に難(ニテ)營(ヤハ)労失是則平
おろか(カウ)なるものハ制産存(アマリヲ)贏備不虞
あとの(ツヽ)ものを過(ス)ごし来(ル)末耗時(ニハ)非(ニハ)有慮
なきものゆえ後来恐(ウレハ)學(ハニ)嗟臍(ノク)夫
ゆめ〳〵ゆめ〳〵
儉(ヲ)ハ徳(ノ)共(ヲ)わすれ
不賢忘分高明(ノ)漸

為なる事は　損己益人富貴門
あるだ多
め多多助けらる睦婣仕恤先王制
人ごとの中に　郷當族親歡喊同
老ても方おいしも況有匱令貧孤獨者
あまねき恩を好（ヨリ）賜莫使不堪（ムル）
ひつくしや小ほろ

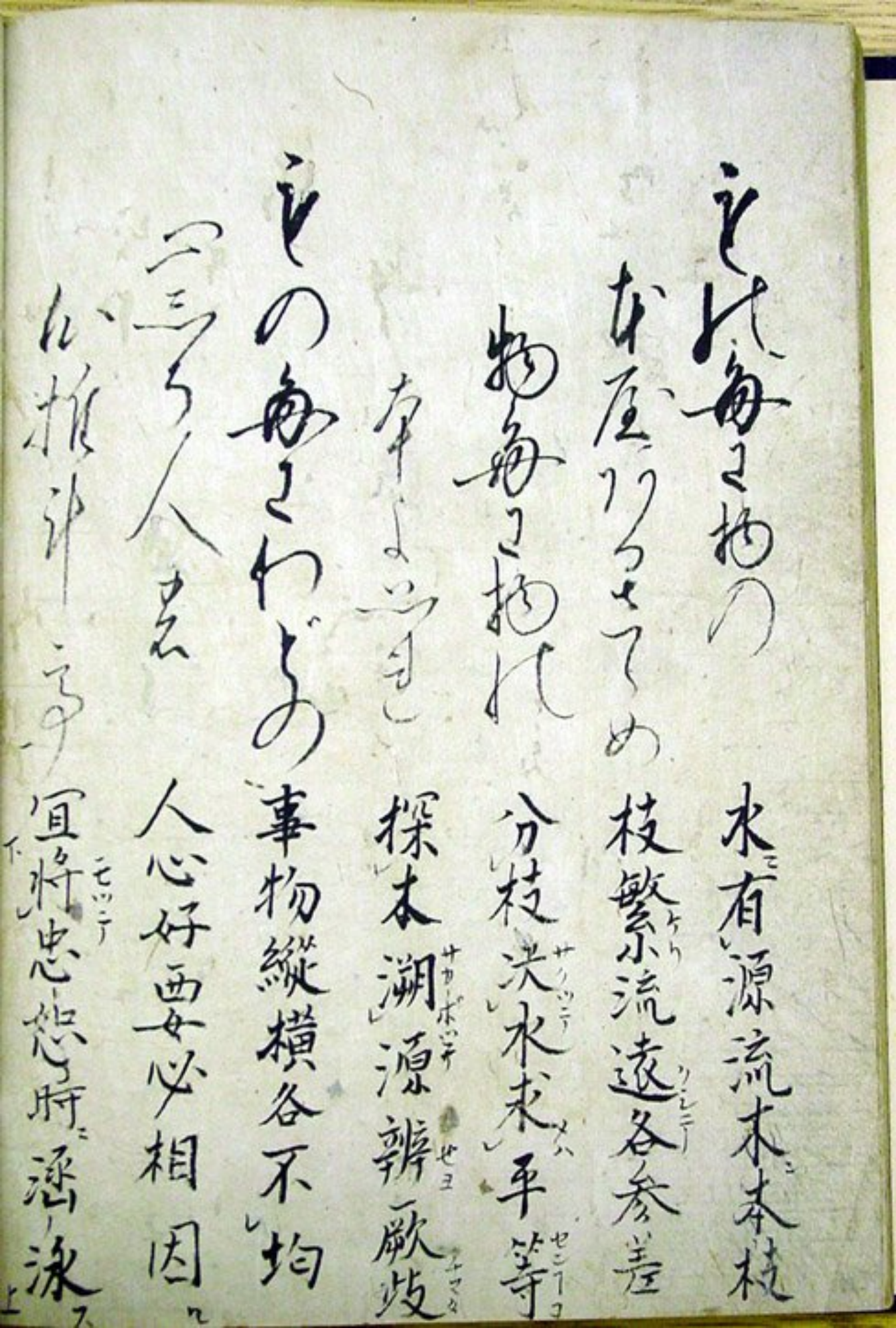


源頭活發清泉湧
溝洫流波皆潔澄
撫字使令僮僕輩
賞功懲過制其宜
八十二
乃知一家之内陶公玉語應深味
勿忘くと述て

是亦人倫相遇ノ
一ツ法ナリ
いやなどとて免身不可為（シバ）啓莫（レ）動
ツ法ナリ非當（キニ）說意休萌
おもなどと
忽代氣（ニ）
他存雙（レ）脅儂非寡
儂有兩肩他不多

他是人儂亦人也
儂安不忍不如他

事や棚ざる 遂蕭牆處蕙蘭滋
人人各擬人如有問齋月治世之
要めそうろう 舉錯分明政化厚
ひとの道学ぶべく 予既為人宜學道
人豈實立家實以叶人名
人乃為身為人失道亡人實
人少人よ 詎得言無愧此生



萬理源頭一貫淳

幸値明良交泰世下

蒼蒼雅化逐歲既(テヨリレニ)

男兒苟且無(レテニハ)

俯仰胸懷豈不(ンヤ)愧

世道元来分兩端

有迴湾又有平

忘れざるべきや不由那裏還由此
人々こそ 棟擇細徘有肺肝
すぐれて視祖父の立身行道振芳聲
爺よ揚ぐれど先祖顯親達法程
子孫ぞ乃ち當識書生能若此
立よすんとも剛全孝于順孫爾
すぎこしぬてそや人論啫忌宜於物

別事ニおよバず所以為人義豈仁
我ヒそ人之心人儘有嫌斯二字
人ニおゐて容難人不得為人
京都江戸北京
汝等ニ(キヤツ)まもるべし京畿萬里滄波路
信敬(マコト ウヤマヒ)ニ忠信ノ心往返安
楫棹(カヂ)ニ在

別事ニあらず所以為レ人義賢仁
我執ニ而人心人儘有嫌斯二字
人ニあらず容レ難レ人不レ得為レ人
京都ニ居レ北京
汐ニ(キヤー)乗ニ(マコト)まこと(ニ)ん京畿萬里滄波路
信敬(ツヽシム)
忠信ヲ心ニ往返安
楫棹(カヂ)ニ(ヲ)発

上谷之会や
そしてもろん上下四方難盡念
いさぎよき事ど千端萬事慮難(ルキ)全
あるべきだ
二三冠首欽差聯句
一年(ヒトトセ)ぬるそ春風の言(ソヨ)葉(ハ)哥(ウタ)
二月(きさらぎ)の空花と共に拾て神谷(かみや)のうさ小(こ)と

二月ヤヨイ 彼岸ヒガンの中日ナカビ 墓参ハカマイリ
四月シガツ 灌仏カンブツ
五月ゴガツ 端午タンゴ
六月ロクガツ 祓ハラエ
七月シチガツ 盆ボン
八月ハチガツ 八朔ハッサク
九月クガツ 重陽チョウヨウ